

小笠原村立学校長 殿

小笠原村教育委員会教育長  
桐 川 勲  
(公印省略)

## 令和 6 年度 授業改善推進プランの提出について (通知)

小笠原村教育委員会では、各学校が児童・生徒一人一人の実態を把握し、適切な指導と評価に生かせるよう毎年 5 月初旬に村独自に学力調査を行っております。当該調査の結果並びに日常の各種教育活動における児童・生徒の観察等から総合的に分析し、児童・生徒一人一人のニーズに応える適切な教育的支援を行うに資する授業改善推進プランの作成を依頼します。

### 記

#### 1 目的

現行学習指導要領が定めるところに基づき、日々の授業改善を通して、児童・生徒一人一人のニーズに応える個別最適な学びの実現を目指した授業を村立学校全体で取り組めるようにするため。

#### 2 提出書類

授業改善推進プラン【別紙 1】

#### 3 様式等

【別紙 1】及び【別紙 2】の様式とする。

なお、各項目への記載内容等については、「5 留意点」の内容及び【別紙 1】及び【別紙 2】を参照すること。

#### 4 提出方法及び期限

##### (1) 提出方法

小笠原村教育委員会事務局教育課長宛電子メールによる。

##### (2) 提出期限

令和 6 年 9 月 27 日(金) 正午まで

##### (3) 提出先

[shidou@vill.ogasawara.tokyo.jp](mailto:shidou@vill.ogasawara.tokyo.jp)

#### 5 留意点

##### (1) 【別紙 1】について

学校長の責任のもと、学校長名で作成すること。各項目に記載する事項については、各校教育課程及び学校経営方針等との明確な関連を示すこと。

なお、【別紙 2】が【別紙 1】に基づいて作成されることに鑑み、管理職は年度当初より【別紙

1】の計画的な作成に努めること。特に、【別紙1】の内容に関する所属教員への管理職による共有を待たずに【別紙2】の作成指示を出すことがないよう十分に留意すること。

(2) 「令和5年度の取り組み状況に関する総括」について

学校長が、令和5年度中に実施した学校評価、各種学力調査、体力・運動能力調査、各種アンケート等の結果から分析した自校の現状について具体的な数値等を挙げながら述べるとともに、過年度の授業改善推進プランの実施状況及び実施による成果と課題について、学校長の立場から具体的な事例をもとに記載すること。特に過去2年以上継続している課題がある場合については、その教科等を明らかにしながら具体的に列記すること。その際、領域等で課題を示す場合には、学習指導要領を根拠とした表現を用いること。

(3) 授業改善に向けた取組について

小笠原村教育委員会教育目標の実現並びに主要教育施策の推進のための授業改善に関する取組の重点について、学校全体で共通して取り組む事項等を具体的に記載すること。特に過去2年以上継続している課題がある場合については、その改善のための具体的な方策について明記すること。

なお、その際に明記する方策は、学校における教育活動に限ること。また、その表記は、教育課程及び学校経営方針等で使用している文言及び内容に準ずること。

(4) 各教科等における授業改善プラン

各学年の各教科等について【別紙2】をもとに作成すること。その際、所属学校長が作成した【別紙1】の内容に則した記載内容となるよう留意すること。

なお、当該学年・教科等の課題、改善方策や検証方法等の内容については、小笠原村立学校の教員配置状況に鑑み、その妥当性を担保するために組織的に内容を精査すること。各種調査等の客観的数値だけではなく、学習指導要領等に示されている内容等に照らして表記内容の妥当性を検討すること。

(5) 公開について

2学期以降に実施する保護者会等において、本プランの実施状況及び授業改善の具体的な取組状況を管理職より保護者へ報告する機会を設定すること。その際、【別紙1】の内容について必ず取り上げること。（【別紙1】は、本通知所定の手続きを終えた後、各校学校及び村役場ホームページ内に公開するため、環境等への配慮から紙面配布は行わないよう留意すること。）

【別紙2】は、次年度の授業改善に向けた方策等であることから、保護者への報告等は、年度末の学校ホームページでの公開に替えることを可とする。

(6) 記載内容について

全ての項目における表記において、児童・生徒個人が類推されることのないよう十分留意するとともに、提出及び公開に際しては、組織的にその記載内容や表記の適切性を精査すること。

以上

【担当】

小笠原教育委員会事務局教育課 指導主事 兵頭 圭太

電話：2-3117 mail: shidou@vill.ogasawara.tokyo.jp

## 小笠原村立〇〇〇学校令和6年度授業改善推進プラン

小笠原村立〇〇学校  
校長 〇〇 〇〇

### (1) 令和5年度の取り組み状況に関する総括

- ※注1 各種学力調査やアンケート調査等の結果をふまえ、具体的な数値やグラフなどを用いて、標題に係る学校全体の現状を具体的に総括する。
- ※注2 総括する項目の中に、昨年度までの実践に関する成果と課題を入れる。
- ※注3 成果と課題については、経年の変化が分かるよう留意する。
- ※注4 項立については、特別な指定を行わない。

### (2) 授業改善のための取組について

小笠原村教育委員会教育目標実現のための授業改善に関する取組の重点

○「わかる」から「できる」を**体感する授業**の確実な実施

「わかった」

➡「できた」

➡「やってみたい」「試してみたい」「調べてみたい」

➡「できるかな？」

➡「これにも使える！」「あれにも使える！」 = (わかった)

➡「できた」

➡「やってみたい」…

➡「できるかな？」

➡…

【指導と評価の一体化】

【体験活動・家庭学習等】

【発展的内容・関連する単元や他の教科等・実生活等】

※注1 「① 課題の要因」として、(1)で明らかになった教育目標を実現する上での課題の要因について、(1)で用いた各種調査の結果等から分析し、明らかになったことを記載する。

※注2 「② 学校全体で取り組む事項」として、①で明らかになった課題を改善するための具体的な取組事項を記載する。その際、課題改善のための視点として、次の各項目に対する事項を記載する。

- ・『主体的・対話的で深い学び』の実現を図るための授業改善の方策
- ・『指導と評価の一体化』の充実のための授業改善の方策
- ・「義務教育9年間の学びの系統性を意識した小中一貫教育充実のための方策」

### (3) 各教科等における授業改善推進プラン

- ※注1 【別紙2】の様式をもとにしてA4用紙1枚に納まるよう作成し、添付する。
- ※注2 【別紙2】の様式については、それぞれのセルの高さは指定しない。
- ※注3 【別紙2】の4～6については、年度末に記入する。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第〇学年 〇〇科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ※注1 令和6年度の各種調査等の結果から当該教科の課題を分析し、明らかになった内容について具体的数値等を用いながら記載すること。
- ※注2 具体的数値を用いる際には、経年の変化が読み取れるように配慮すること。
- ※注3 課題を示す際の文末表現として、「～できない。」という表現は極力避けること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

- ※注1 令和4年度に策定された当該学年の授業改善推進プランより、1で挙げた課題と関連する項目について転記する。  
(令和4年度策定の授業改善推進プランをもとに令和5年度中に実践した成果の一部として、令和6年度の各種調査結果等が表出しているため。)
- ※注2 例えば、令和5年度第4学年国語科の授業改善推進プランを作成する場合には、令和3年度第2学年国語科の授業改善推進プランを参照すること。そのため、学校種を跨いだり、該当の授業改善推進プランがなかったりする場合もある。その際、令和3年度に当該の授業改善推進プランが策定されていない、または、策定された当該の授業改善推進プランに該当する項目がない場合は、その事実を記載する。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ※注1 (1)に転記した内容と関連する工夫等について記載する。
- ※注2 (1)※注3に該当する場合は、現在実践している当該の工夫等のうち、特筆すべき事項を取り上げ、その工夫等の実際について具体的に記載する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

〈検証方法〉

- ※注1 1で挙げた課題と、2(1)(2)に記載された内容に鑑みた方策とする。
- ※注2 方策と検証方法が呼応するように記載し、方策は2つまでとする。
- ※注3 検証方法については、「指導と評価の一体化」の視点に立ち、具体的な時期や方法、目標値等を記載する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

〈成果〉

- ※注1 検証結果をもとに、成果と課題に分けて、具体的な数値を用いながら端的に記載する。
- ※注2 方策が複数ある場合は、総括した形で記載する。

〈課題〉

5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ※注1 4で成果を得られた方策は、1で挙げた課題を改善する有効な手立てとして次学年で確実に実施できるよう、具体的な単元名等を挙げてその実施方法を記載すること。
- ※注2 4で課題とされた事象については、次年度の実践で改善できるよう、3で挙げた方策の代案を提案する形で、具体的な単元名等を挙げてその実施方法を記載すること。

6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

- ※注1 5に記載した事項を1年間取り組むことで期待される児童(生徒)の姿を、1で記載した課題に対応させながら具体的に記載する。